

野菜畑作生産情報 第5号（要約版）

平成27年8月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

◎病害虫防除と排水対策を徹底しましょう！
◎適正な温度管理と肥培管理を徹底しましょう！

○大豆

- 1 生育は、平年を上回っている。
- 2 食葉性害虫の早期発見・早期防除を徹底するとともに、マメシンクイガや紫斑病の適期防除に努める。
- 3 台風や大雨に備え、滞水しないように明きょ等の排水対策を徹底する。

○小麦（は種の準備）

- 1 適期（9月15日～25日）には種できるようなほ場を準備する。
- 2 ほ場の団地化を図り、明きょや弾丸暗きょなどで十分な排水対策を行う。
- 3 紅色雪腐病の被害を予防するため、種子消毒を行う。

○ながいも

- 1 生育は順調で、地上部、地下部とも平年を上回っている。
- 2 葉渋病、炭疽病など病害の予防防除を徹底するとともに、ナガイモコガ、アブラムシ類などの害虫の早期発見・適期防除に努める。
- 3 台風や大雨に備え、ネットや支柱の補強、降雨後の停滞水の排水対策を徹底する。また、植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

○にんにく（植付の準備）

- 1 病害虫が発生していないほ場を選んで作付けする。
- 2 土壌改良資材の施用量は土壌診断結果に基づいて決める。また、堆きゅう肥の施用は指導機関に相談し、適正に行う。
- 3 病害虫に汚染されていない種子を確保し、種子消毒を徹底する。

○夏だいこん

- 1 生育は順調で、地上部は平年並から上回っている。
- 2 軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底する。

○秋にんじん

- 1 生育は順調で、地上部、地下部とも平年を上回っている。
- 2 ヨトウムシや黒葉枯病の早期発見・早期防除に努める。

○ごぼう

- 1 生育は順調で、草丈は平年並である。
- 2 黒斑細菌病等の防除に努める。

○夏秋トマト

- 1 5月上旬定植では、6段果房の収穫期である。
- 2 肩換気や遮光資材などによる適正な温度管理を徹底する。また、きめ細やかなかん水、適切な肥培管理により草勢の維持に努める。
- 3 9月以降は裂果の発生が多くなるので、土壌水分が極端に変化しないようにする。
- 4 灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類の定期的な防除及びタバコガ類、コナジラミ類の早期発見・早期防除に努める。

○ねぎ

- 1 草丈、茎径とも平年を下回っている。
- 2 最終培土は、収穫の30日前頃に行い、葉の分岐部まで丁寧に土を寄せ、軟白長30cm以上を確保する。
- 3 ベと病、さび病、黒斑病、ネギアザミウマ等病害虫の早期防除に努める。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめに取る！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！



報道機関用提出資料	
担当課	農産園芸課 野菜・畑作物振興グループ
担当者	今井 技師
電話番号	直通 017-734-9481 内線 3462
報道監	農林水産部 津島 農商工連携推進監 (次長) 内線 3181